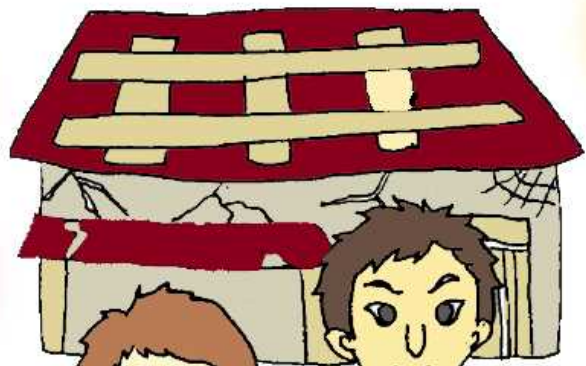


つながるの昔っこ (昔話) 12

運のいい婿 (標準語)



国土交通省 東北地方整備局
岩木川ダム統合管理事務所
イラスト：やざわ ゆな
カラーリング：つしま けいこ



昔、あるところに貧乏な若者が居ました。貧乏ですが、気だても優しく、力も強くて、男振りも良かったので、庄屋の娘がこの男を見染めて、親の反対を押し切って、押しかけ女房になってきました。



小正月になったので、婿の若者がしゅうと礼に行くことになりました。小正月というのは、旧暦の一月十五日のことで、しゅうと礼とは、嫁の実家に挨拶に行くことです。

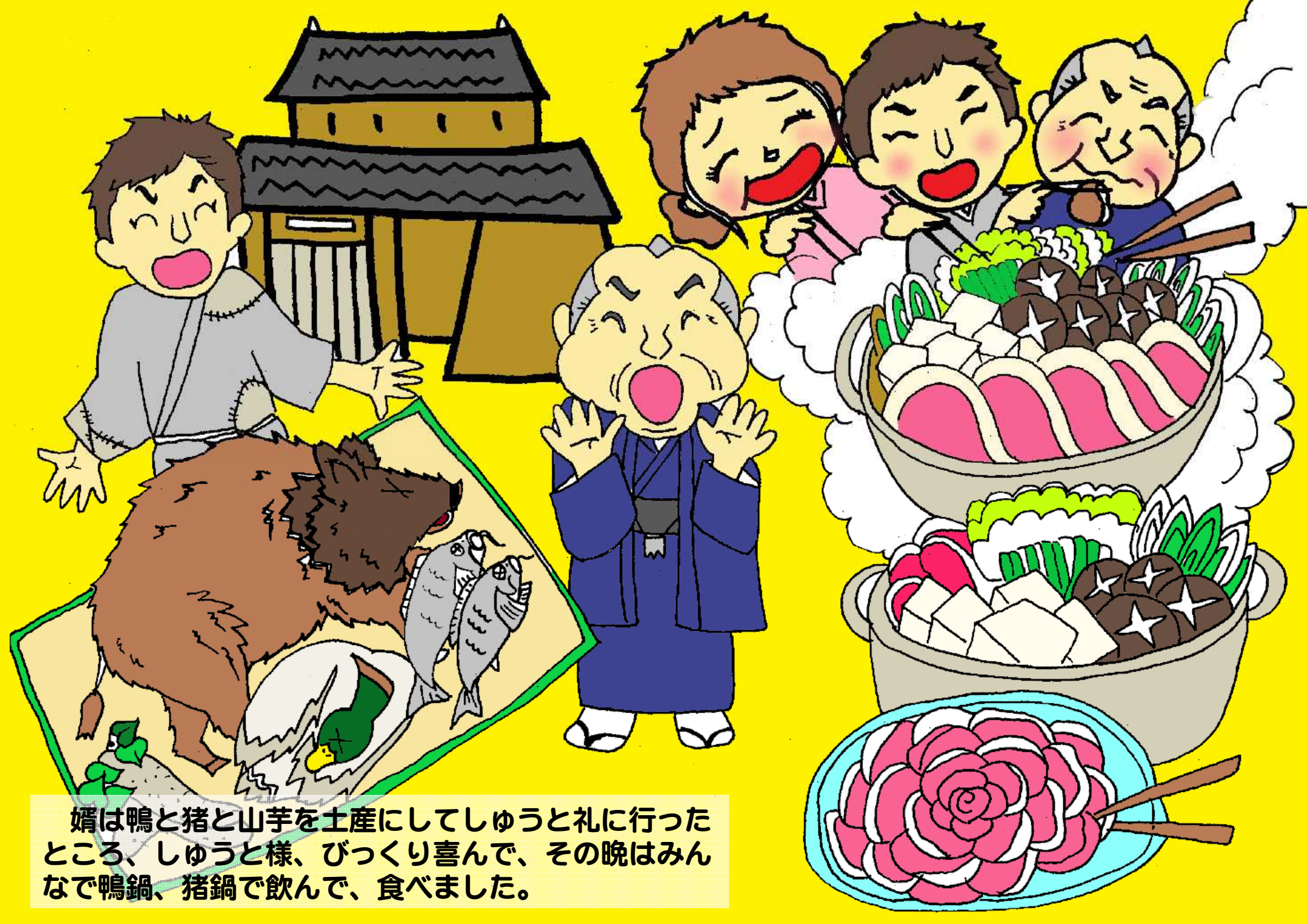
この時、普通であればしゅうと様のところに手土産持って行くものですが、若者は貧乏なので何も土産にするものが無い。鴨でも獲って持って行こうかと思い、山に自分で作った弓を持って行きました。



沼に鴨が居たので、『しめた』と思い、弓を引き絞って、バンと射ました。はじめての矢はあんまり勢いが強かったので、鴨の上を越して、沼の向こうの藪の中に飛んでいきました。二本目の矢は、少し加減して射ったら、ゴロツと肥えた鴨に当たりました。若者は急いで鴨拾いにいこうと股引をはいたまま、ジャワジャワジャワと水に入っていました。

鴨を拾って水から上がってきたら、股引に大きな鯉が2本入っていました。外れた矢がもったいないと思い、沼の向こうの藪を探しに行ったら、矢が猪にグッサリ刺さっていました。猪が苦しくて暴れたのか、土を掘った跡があり、その中に山芋二本出ていました。





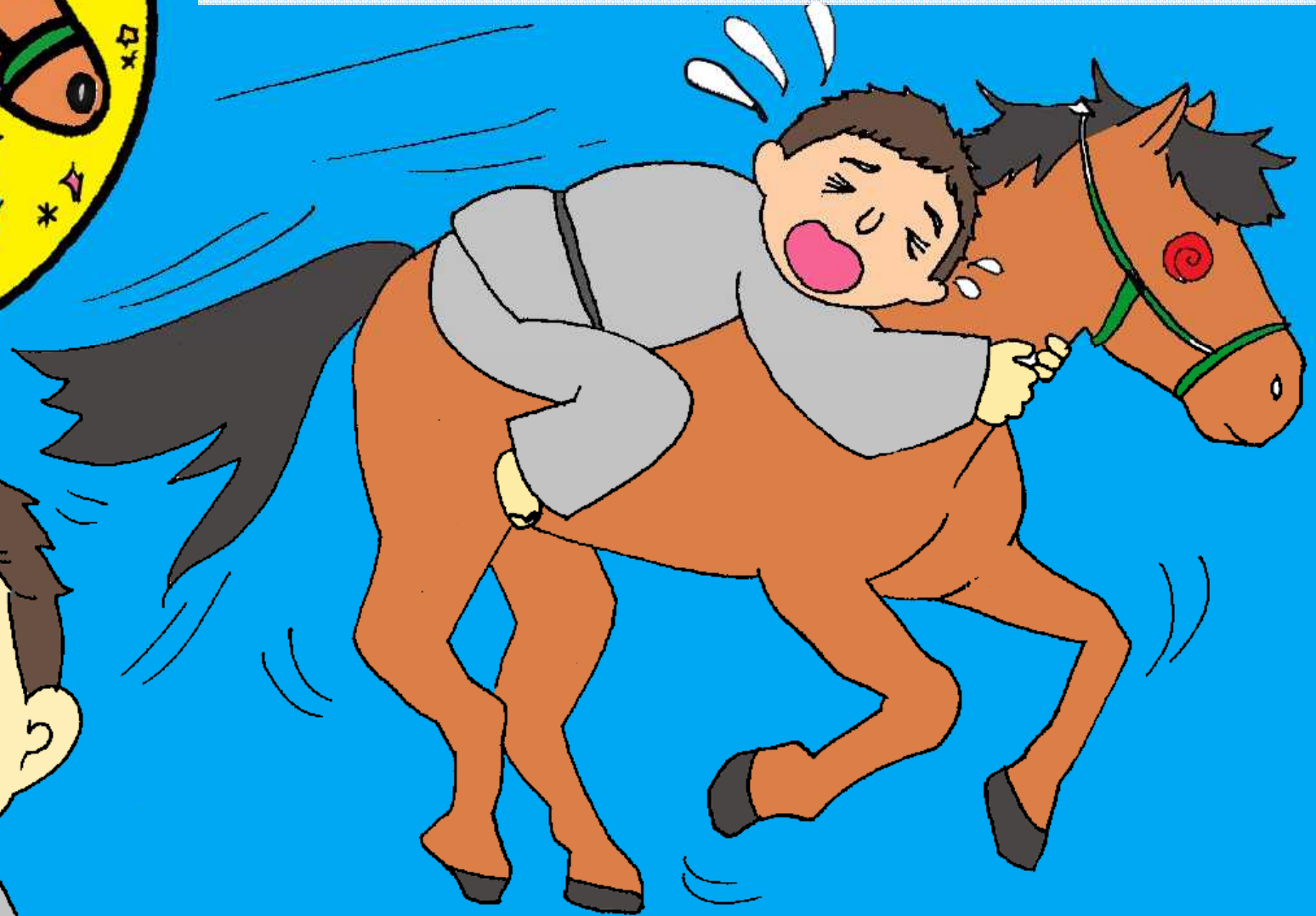
婿は鴨と猪と山芋を土産にしてしゅうと礼に行ったところ、しゅうと様、びっくり喜んで、その晩はみんなで鴨鍋、猪鍋で飲んで、食べました。

次の日の朝、しゅうと様が
『婿、馬小屋から馬出して、少し運動させてちょうだい』と言いました。



あんまりいい馬なので、婿はちょっと乗ってみようかと思い、乗ったところ、馬は知らない人が乗ったので、暴れてグーグと一目散に走りました。『ドォ、ドォ』って叫んでも止まらず、パカッパカッっていつまでも走りました。

『ドォ、ドォ』と言うのは、馬をあやす言葉で『よし、よし、止まれ、止まれ』という意味。





婿は怖くなって、『わいん、わいん』と半分泣きながら馬につかまっていました。すれ違った村の人、『あの人、馬に乗って歌を歌っているよ』って言いました。



馬がいつまでも走るのので、とうとう、村からずーっとはなれた山の森まで来ました。

そうしたら、木のかげから、ベロツと熊が出てきました。馬はヒヒーンと棒立ちになって止まって、今度は逃げようとして、どっと後ろ向きになって、後ろ足をどっと蹴り上げたので、足のヒズメが熊の頭にガツンと当たって熊はドサッと倒れました。



そうなったので、婿は戻りは本当に歌をうたって、熊を引き摺ってきました。村の人は『あの人は、行きも帰りも歌をうたっている』って言いました。



その晩は、熊鍋を、近所も集めて酒盛りをしました。村の人は鴨と猪を獲った弓を見せてくれと言うので、婿は弓を持ってきて見せました。

村の人は、射て見せてくれって言うので、矢を持ってきて、つがえて、蔵の屋根の方にヒューと射ました。矢は蔵の屋根まで飛んでいき、丁度、蔵に盗みに入ろうとしている泥棒のお尻にジョギッと当たりました。



この男は、この頃、村中の蔵などを荒らしまわっていた盗人でした。このよくない泥棒を捕まえたので、村の人達喜んで喜んで、庄屋様に『婿様のおかげで、沢山ご馳走になって、又、泥棒まで捕まえてもらって、有り難うございます。』ってお礼しました。

庄屋様は、本当は可愛がっていた娘をさらって行ったこの若者に腹を立てていましたが、今度はすっかり機嫌が直って、『さすが、家の婿だ』って褒めました。

それから、娘を呼んできて、婿と一緒に住ませました。若い二人は仕事も力を合わせて、そつなくこなし、庄屋様を助けて、村の人達の面倒もよく見ました。

村の人達もこの婿さまの言うことはよく聞いたので、庄屋様も隠居して婿にゆずりました。

そして、孫が出来、庄屋様はなんとも可愛がって、『お前の親父は、弓の名人だ』と言って、熊獲り、猪獲りの手柄話も語っておしえました。

人の成功は、まず努力だ。それから運だ。努力は大切だが、運というのも大事なものだ。

おしまい。

